

受領No. 1604

非体験者の公害経験継承実践による学習効果の検証 —公害地域の生活史制作を通じた価値観形成—

代表研究者 清水万由子（龍谷大学 准教授）



Examining learning effects of passing on pollution experience: making oral history of an environmentally damaged community by those who have never experienced

Representative Mayuko Shimizu (Associate Professor, Ryukoku University)

研究概要

本研究は、公害問題に関する体験者の語りや一次資料を活用して非体験者が公害地域の生活史を学び、表現することで他者へと継承する実践（公害経験継承実践）がいかなる価値観形成につながるかを検証することを目的とする。日本における公害反対運動は、環境不正義との闘いであったが、そこで提起された環境正義を求める価値観は、今日に十分に学習・継承されてきたとは言えず、今日の環境問題の深刻化に対して積極的な示唆を与えることができていない。

本研究は、(1)継承活動の設計、(2)継承活動の実施、(3)継承活動の効果検証の3つのステップで遂行する。(1)継承活動の設計では、公害経験継承の実践活動の評価指標を検討する。(2)継承活動の実施では、大学生が公害の同時代的体験者の聞き書き作品制作とインタビュー映像制作に取り組む。公害の非体験者が、同時代体験者の多様な生活史と関連一次資料を調査することで、まず様々な加害と被害が交錯し得る状況を理解する。公害経験から学び取った教訓を表現する活動を通して、価値観形成を試みる。(3)継承活動の効果検証では、継承活動の記録を分析し、評価指標によって活動の価値観形成効果を明らかにする。